入賞者が決まる

第6回詩のまち前橋若い芽のポエム

講評を述べる秋谷委員長

「第六回詩のまち前橋若い芽のポエム」の選考委員会が、九月三日に前橋テルサで開催。六千二百編余りの応募の中から、受賞作品が決まりました。ここでは、小学生、中学生、高校生の三部門で、最優秀賞である美棹賞に輝いた作品と入賞者を紹介。なお、賞の贈呈式と朗読会は、十一月九日、前橋文学館で行われます。

校長先生

朝、学校にいくと友だちがさわいでいた。
なんか、いやだなあ、よく分からずに体いくかんにいった。
きょうとう先生が、
「校長先生が、おなくなりになりました。」
と、いった。
「もうよんでも、へんじをしないんだよ。」
「もうこないんだよ。」
っていった。かなしくってなみだが出そうになったよ。

小学生の部

高橋栞奈さん
桃川小
2年

もっと、おにいちゃんやおねえちゃんみたいに、校長先生からしょうじょう、もらいたかったな。
「すごいぞがんばったね。」
っていって、あくしゅしてもらいたかったな。
やさしくって、あかるくって、いつもにこにこしていて、朝のおはなしおもしろかったな。
校長先生大すきだったな。
もう会えないのさびしいな。
校長しつにいけば会えるのかな。
校長先生、どのホタルになったんかな。
きっと、元気よく、ピカピカひかるホタルかな。
よる田んぼにいけば会えるのかな。
どの、おほしさまになったんかな。
きっと、でっかく、キラキラひかってるんかな。
とにかく、もういちど会いたいな。
大すきだったな校長先生。

32都道府県から多くの応募

「詩のまち前橋若い芽のポエム」は、全国の小中学生・高校生を対象にした詩のコンクール。六回目を数える本年度は、三十二都道府県から、六千二百五十四編もの作品が寄せられました。内訳は小学生の部二千九十編、中学生の部三千六百二十五編、高校生の部五百三十九編。

この中から入賞作品を選考するにあたり、推薦委員による予備選考を行い推薦作品を決定。その後、選考委員による本選考が先月三日に前橋テルサで開催され、栄えある入賞作品が選ばれました。

美棹賞など90人が見事入賞

三部門における入賞者の合計は九十人。氏名などは次のとおりです。

――敬称略――

□小学生の部

美棹賞（金賞）＝高橋栞奈（桃川小二年）　**銀賞**＝藤原麻衣（天神小二年）　**銅賞**＝高橋芳宣（元総社小三年）　**佳作**＝八人　**入選**＝二十人

□中学生の部

美棹賞（金賞）＝大塚里美（県立二葉養護学校中学部二年）　**銀賞**＝木村あいら（荒砥中三年）　**銅賞**＝野中美里（高知県高知学芸中二年）　**佳作**＝十人　**入選**＝三十六人

□高校生の部

美棹賞（金賞）＝竹内香織（共愛学園高三年）　**銀賞**＝小林香菜（市立前橋高二年）　**銅賞**＝星野美貴（千葉県千葉萌陽高二年）　**佳作**＝三人　**入選**＝四人